

★練馬区教育委員会教育長賞

『税と私』

練馬区立光が丘第一中学校 二学年 若松 葵

戦国時代ー武田信玄や本多忠勝、真田幸村のような勇ましい武将達が戦場で指揮を取り、馬に乗って駆け回る…そんな姿を想像するだけでわくわくする。

私は日本の歴史が大好きで、よく歴史の本や漫画を読んでいる。特に戦国時代が好きだ。でも、日本の歴史の本を読んではいるとき、ふと思うことがある。それは「昔の日本に生まれてこなくてよかったです」ということだ。少し冒頭で言つていたことと矛盾しているけれども、「憧れる」と実際に暮らすとは別である。

なんといっても昔の生活は大変そうだ。特に重い年貢を納めなければいけない。実際戦国時代でどれだけ納めていたのかを調べてみると、だいたいの地域が一公一民といって、収穫の三分の一を年貢として納められていたそうだ。でも集められた年貢は農民のためになるような形で直接返つてくることはなかつたそうだ。

そして、昔は人口の八割以上が農民だったはずだから、もし自分がその時代に生まれていたらきっと農民だつただろう。重い年貢のせいで生活は苦しく、食事は一日一食で、学校に行くことができず、一日中働き続ける…そう考えるだけでゾッとする。では、今の日本はどうだろう。

今の日本は「税金＝マイナスな物」という

概念が特に強まっている気がする。確かに昔ほどではないにせよ、大人は多くの税を払っているし、増税が行われてたりする。

でも私は「税金があつて良かった」と思つてている。なぜなら、私が歴史好きになつたきっかけを税金がつくつてくれたからだ。

私は小学生の頃、毎日のように図書館にお世話になつていた。毎回歴史の本を借りられるだけ借りて、本でパンパンになつたバッグを家に持つて帰つてひたすら読む。そんな時間が大好きだった。歴史だけでなく、いろんな本も借りているうちに、本を読むことも好きになつた。

图书馆もそうだが、学校や地域のプール、公園、病院なども税金で支えられている、もし税金がなかつたら、今のように学び、遊び、成長することができなかつたと思う。だから私は税金が身近なものに使われるこの時代に生まられて本当に良かったと感じている。

自分は働いたこともないので「税金で社会を支える立派な大人になります！」なんて偉そうなことは言えないし、きっと数年後には「給料からこんなにも税金が引かれるなんて…」と愚痴をこぼしていいだろう。

でも今まで税金のおかげで今の自分がいることを忘れてはいけない。この私は人一倍、税金のお世話になつてていると思う。だからその感謝は社会へと返さなければいけない。その気持ちだけは忘れずに将来働いていきた